



引き出しの中の家

朽木祥作 金子恵絵 ポプラ社

七重ななえの大切なたいせつなものは、亡なくなったお母さんかあとつくった人にん
形ぎようのための引き出しひだの中なかの家いえ。しばらく祖父母そふぼの家いえへ住すむ
ことになった七重ななえは、ご先祖せんぞさまの覚え書おぼで、小さい人ちい「花はな
明あかり」のしことを知る。花明はなあかりにふさわしい大おおきさの
ものを仕立したてれば、花明はなあかりは、きつと、やってくる」。
そしてある日ひ、独楽子こまこという名なの
花明はなあかりが引き出しひだの中なかの家いえにやつ
てきたのだった。
七重ななえと独楽子こまこ、それから数すうじゅうねんご
に出会でった薫かあると桜子さくらこ。人間にんげんと花明はなあ
かりの心こころ温あたたまる交流こうりゅうを描えがいた物語ものがたり。

